

第27回 高齢化社会が直面する課題

明治大学政治経済学部
専任講師・博士（経済学）

下斗米 秀之

出生率低下による高齢化社会

アメリカを含めて世界中の国々が出生率の低下による高齢化社会を迎えている。女性の社会進出にともなって初婚年齢は上昇し、合計特殊出生率は、年々低くなっている¹。20代から30代半ばの女性たちは、キャリアの重要な形成期でもあることも多く、出産の機会費用を押し上げている。

実際にアメリカの年齢別出生率は、2010年代までは25～29歳が最も高かったが、2022年のデータによると、最も高い年齢層は30～34歳となり、平均出産年齢の高齢化が進んでいる。

これは世界的な傾向で、女性の合計特殊出生率は、ヨーロッパでは1950年の2.7から2021年には1.5まで低下し、出生率が特に低い日本をはじめとする東アジアでは、人口置換水準を大きく下回っている。むろん医学の進歩によって高齢でも希望する家族を持つことができるようになったこと、キャリアを中断せずとも出産時期を選択できるようになった点は、ポジティブに評価できる。出生率の低下は、女性たちの機会の改善にその原因があるため、今後も持続する可能性が高い。

そうであるならば人口動態上の課題は高齢化が進むことである。栄養や知識、下水処理や公衆衛生上の充実によって、多くの高齢者が長く健康に生きられるようになった。2000年には65歳以上は12%だったのが、2040年には21%を占めると予想されている。人口の高齢化は、労働力人口の割合の低下をもたらすため、メディケアやメディケイドなど社会保障制度にも見直しをせまることになる。

介護負担が重くなる社会

高齢化は介護労働の家族内負担にも影響する。高齢化社会では介護が不可欠であり、その負担の多くは家族にのしかかる。アメリカの合計特殊出生率が、現在の1.66を維持するならば、長期的には祖父母1人につき平均0.7人の孫が生まれることになる。人工知能をはじめとする技術の進歩によって負担が軽減されたとしても、これまでの介護とは異なる未来が待っている。

若者や中年成人の死亡率が後退

また気がかりなデータもある。過去10年間で、アメリカの若者や中年成人の死亡率が後退しているのだ。交通事故や銃犯罪などに加え、薬物の過剰摂取が、とくにティーンエイジャーや中年成人の間で増えている。歴史的にみればかつての合法的なオピオイド処方が、アメリカにおける薬物の過剰摂取の流行をもたらした。その有害性に気がついた後、薬物中毒に苦しむ人々には、ヘロインを含めた非合法的なオピオイドが供給され、「絶望死」は加速した。

労働力人口の成長が緩やかになるということは、経済成長全体が減速することを意味する。来るべき人口動態の変化に備えるには、予想される変化の速度や新しい人口転換を抑制させるために移民の現実的な評価を含めて、注意して計画をたてる必要がある。残された時間はあまりない。

¹ 合計特殊出生率が2.0未満は「人口置換水準を下回る出生率」となり、移民がいなければ、最終的に人口が減少することを意味する。